



聖書クラス 12使徒

「あなたに天の御国のかぎを上げます」

マタイ16:19



四週目：グループ 3

小ヤコブ、ヤコブの子ユダ、
熱心党のシモン、
イスカリオテのユダ



小ヤコブ (アルファイの子ヤコブ)



家族、出身地、元の職業

*アルファイの子ヤコブ（マルコ3:18）

*レビもアルファイの子であった（マルコ2:14）のでレビと小ヤコブが兄弟の可能性

*マルコは小ヤコブと呼ぶ（マルコ15:40）

MIKROS ミクロス：小さいという意味。これは背が低いか立場的なことを意味する

*母マリア：十字架の目撃者

（マルコ15:40）



福音書や使徒言行録での記録

彼についての記録はほとんどありません

人生の後半・死

- ◆ 小アジアで宣教し石投げにされた
- ◆ その後のこぎりで切断され殺された





ヤコブの子ユダ (タダイ)

家族、出身地、元の職業




マタイ10:3、マルコ3:18ではタダイ、
ルカ6:13、使徒1:13でヤコブの子ユダ
と呼ばれている

タダイの意味は「愛されている」

イスカリオテのユダと間違わないために
これらの名前があった可能性

福音書や使徒言行録での記録



*ヨハネ14:22 イスカリオテでない方のユダが、「主よ、わたしたちには御自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか」と言った。

*キリストが行おうとしていたことに混乱していた様子

*この世での救い主の到来を期待していたのかもしれない

人生の後半・死



- *ユーフラテス川の近くのオデッサで宣教活動を行った
- *アルメニアで教会を始めた
- *矢に打たれ殺された
- *彼の印は船である：多くの宣教旅行に旅立ったため



熱心党のシモン

家族、出身地、元の職業

- ◆ おそらくガリラヤ地方
- ◆ 伝説①ー漁師であった、イエスに呼ばれた時漁をしていた
- ◆ 伝説②ーカナの結婚式の花婿だった
- ◆ 熱心党に所属していた





キリストに出会う前の性格・弱さ

個人的にはほとんど分からない。しかし熱心党については色々と知られている。

キリニウスがシリア州の総督であったとき住民登録が行われた(ルカ2:1)その反乱が起こり、戦いがあった。

使徒5:37 その後、住民登録の時、ガリラヤのユダが立ち上がり、民衆をひきいて反乱を起こしたが、彼も滅び、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられた。



キリストに出会う前の性格・弱さ

この反乱の結果、熱心党ができたと言われている。

歴史家ヨセフスによると熱心党は熱狂的な国家主義者であり、待ち伏せや暗殺や様々なテロ的な手段をつかってもローマ帝国を滅ぼそうとしていた集団である

イエスの代わりに釈放されたバラバが熱心党であったという説もある



キリストに出会う前の性格・弱さ

彼らのモットー:「メシア以外王は無し、神殿以外の税金無し、熱心党以外の友は無し」

多くの歴史家によると熱心党の熱狂的な態度によってエルサレムがAD70年に崩壊されたと言われている

熱心党にとってローマは最大の敵。反ローマではないと敵とみなす。ヘレニストのユダヤ人は敵と思われる。徴税人は裏切り者



キリストによってどのように変わったか

福音書には具体的に書いていないが、熱心党としての色々な過度の部分が変わったと思われる。でなければ徴税人がいる使徒に加わることができなかつただろう。又は彼が暴力をつかってローマ帝国に対し戦おうとする記録も見られない。

イエスとの関係

イエスとの関係は具体的には分からない。しかしイエスが彼を選んだということに関して、まず熱心党の中でも使徒となれる要素を彼に見出したと思われる。イエスは彼を12使徒に加えることに大きなリスクがあった。ローマ帝国からの目線が厳しくなるリスクがあった。しかし、それでもあえて選んだ。





福音書や使徒言行録での記録

特にありません

人生の後半・死

- ◆ 小アジア、北アフリカ、黒海、バビロニアなどで宣教活動を行った
- ◆ イギリスにも行ったという説
- ◆ ペルシャで暴動によって殺害された説
又はイギリスで十字架につけられた
- ◆ 印として聖書の上にいる魚





イスカリオテのユダ

家族、出身地、元の職業

*父親シモン

(ヨハネ13:2) 夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。

*出身地： ケリオテ (Kerioth)

「イシュ・カリオテ」

ヘブロンの南の小さな町、彼だけがガリラヤ出身ではなかった(他の使徒と親しみにくかった?)





ガラリア

ヘブロン

キリストに出会う前の性格・弱さ

具体的には分かりません



キリストによってどのように変わったか

結果的にサタンにつかわれ、イエスを裏切ることになるので、どれほど彼がキリストによって変わったかは判断しにくい。



イエスとの関係

イエスのお金のつかい方に対して不満があったよう。(その他の不満の可能性)

イエスは裏切る場面でも「友よ」と呼び、接吻させた(マタイ26:49-50)



福音書や使徒言行録での記録



ヨハネ12:4-6 弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっているながら、その中身をごまかしていたからである。

福音書や使徒言行録での記録



ヨハネ6:70-71 すると、イエスは言われた。「あなたがた十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。」イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、十二人の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

福音書や使徒言行録での記録



マタイ26:14-16 そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれま
すか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

福音書や使徒言行録での記録



マタイ27:3-5 そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。

人生の後半・死

*イエスを裏切った後自殺した
(マタイ27:5)





マテリアス

福音書や使徒言行録での記録

使徒1:21-26 そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」そこで人々は、バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフと、マティアの二人を立てて、次のように祈った。「すべての人の心をご存じである主よ、この二人のうちのどちらをお選びになったかを、お示してください。ユダが自分の行くべき所に行くために離れてしまった、使徒としてのこの任務を継がせるためです。」二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった。



福音書や使徒言行録での記録

この記録以外聖書はマティアスについては何も語らない。しかし、この聖句によって使徒の条件がいつか明らかになる。

*最初からイエスの弟子であった(ユダヤ人である)

*主イエス・キリストを目撃した人

*主の復活を目撃した人



人生の後半・死

エルサレムで石投げされ、その後打ち首
になったといわれている

